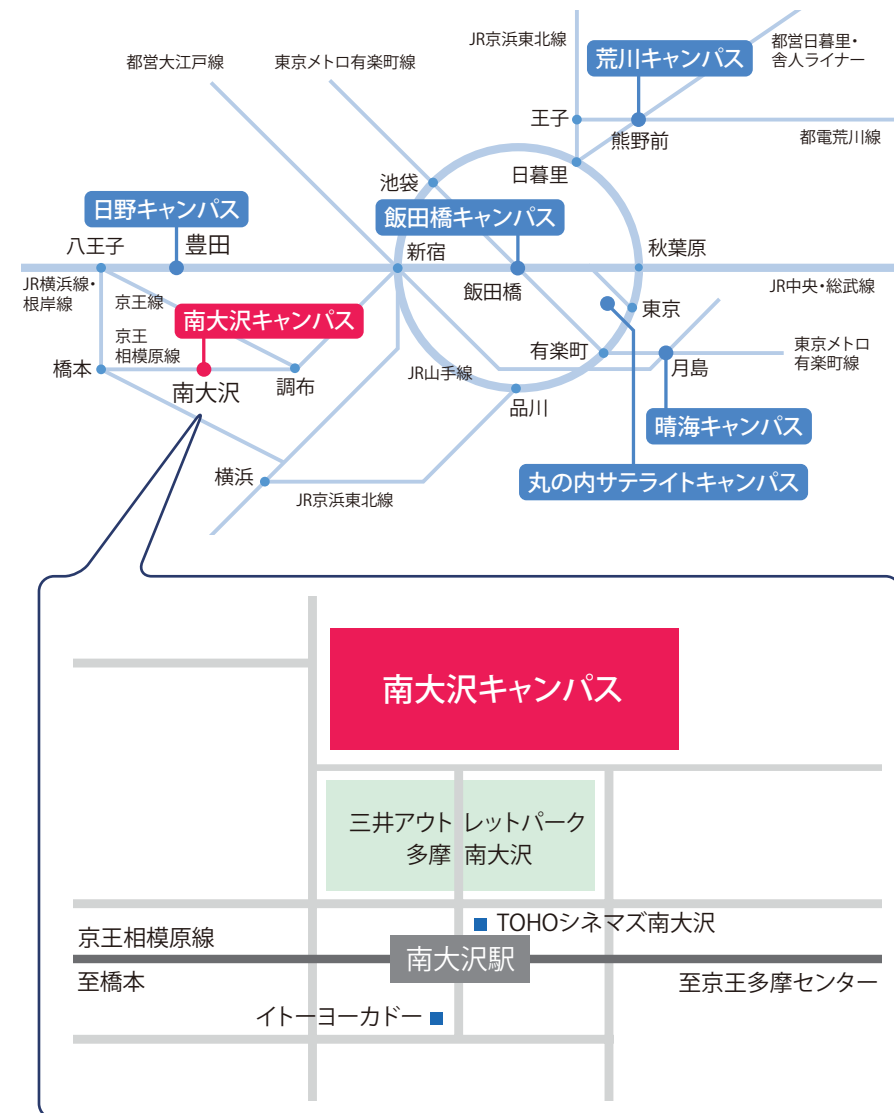


College Guide Book

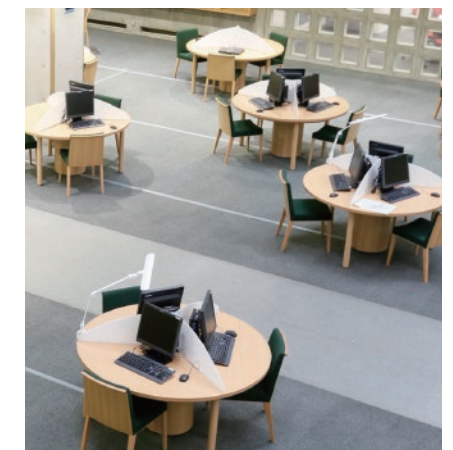
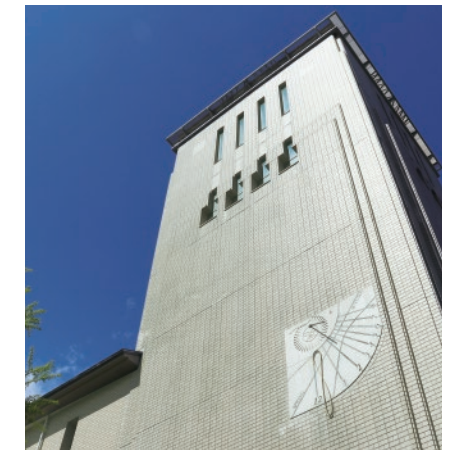
カレッジ案内2024

Access

東京都立大学 南大沢キャンパス



所在地：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1



お問い合わせ
東京都立大学管理部 生涯学習推進課
プレミアム・カレッジ企画運営係
TEL.042-677-1111(代)
※9:00~17:00(土・日・祝日を除く)
www.pc.tmu.ac.jp プレミアム・カレッジ 検索



Contents

南大沢キャンパスではじめる、50歳からの新たな学び	P.1
東京都立大学プレミアム・カレッジの特徴	P.2
ご挨拶 東京都立大学プレミアム・カレッジ カレッジ長、東京都立大学学長	P.4
東京都立大学プレミアム・カレッジの教育(3つのポリシー) ～「求める学生像」等～	P.5
東京都立大学プレミアム・カレッジのカリキュラムについて カリキュラムの概要	P.6
カリキュラムの構成	P.7
カリキュラムの内容(授業科目の概要)	P.8
ゼミナール担当教員からのメッセージ	P.15
東京都立大学プレミアム・カレッジでの学生生活について	P.18
東京都立大学プレミアム・カレッジ生の声	P.20
東京都立大学プレミアム・カレッジでの過ごし方(イメージ)	P.21
キャンパス紹介(東京都立大学 南大沢キャンパス)	P.22
年間スケジュール(予定)	P.24
入学選考について (2024年度東京都立大学プレミアム・カレッジ本科生募集概要)	P.25
修了(卒業)要件、履修の上限、修了後について	P.26
FAQ(よくあるご質問・回答)	P.27
【参考】東京都立大学について	P.28
【参考】東京都立大学における生涯教育の取組	P.29

南大沢キャンパスではじめる、 50歳からの新たな学び



東京都立大学プレミアム・カレッジは、様々な経験を積んだ、
50歳以上のプレミアム世代※の方々に向けて、新しい学びのスタイルを提案します。
総合大学である東京都立大学が有する豊かな教育研究資源や、東京都との緊密な連携により、
ほかでは経験できない学びと交流の場を提供します。

※プレミアム世代とは
人生100年時代を迎えようとする中、豊富な時間を自らの意思により活用し、行動することができる世代、より豊かで多様な生き方を過ごすことができる世代、それがこれからの50歳以上の方々と考えます。
50歳以上のプレミアム世代の皆様方が、より豊かで充実した、活力ある「プレミアム」な暮らしを送るため、東京都立大学プレミアム・カレッジが、一つの場、契機となれるよう、取り組みを進めてまいります。

東京都立大学プレミアム・カレッジの概要

入学対象等 (本科)	募集人数	55名程度
	入学選考(概要)	小論文及び面接
	受講料(授業料)	年額20万円(入学金なし)
学生生活	在学期間	本科：1年間(4月～翌年3月) 専攻科※1：1年間(4月～翌年3月) 研究生コース※2：最長2年間(年度更新制) ※1 専攻科は、本科修了後に引き続きカレッジで学び続けられる制度です。 ※2 研究生コースは、専攻科修了生を対象とした、自主的・主体的な研究活動をサポートする制度です。
	カリキュラム	「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマに、カレッジ専任の教授等による独自のカリキュラムを提供



東京都立大学 プレミアム・カレッジの特徴

緑豊かで開放的な南大沢キャンパスでの学び

東京都立大学プレミアム・カレッジは、東京都立大学の南大沢キャンパス(八王子市)に開講します。南大沢キャンパスの美しさ、開放感は、数多くある大学キャンパスの中でも特に優れていると評価されています。在学生の評判

も非常に良く、「居るだけで癒される」といった声や、「遅くまで自習した後に見る、キャンパスの夜景も印象的」など、キャンパスの美しさは、このカレッジの大きな魅力と言えます。

「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマとした、幅広い独自のカリキュラム

総合大学である東京都立大学の有する豊かで多様な教育研究資源を生かした、魅力あふれる授業を提供します。講義は、教育研究実績が極めて豊富なカレッジ専任の教授等による、東京都立大学プレミアム・カレッジ独自のカリキュラムです。具体的には、歴史や心理学、社会学など

の文系科目に加え、世界自然遺産に登録されている小笠原の自然保全等の自然科学や環境学、トンネルや橋梁等の土木工学を始めとする理系・文理融合科目、栄養学といった幅広い科目を、自ら選択して学ぶことができます。

全員がゼミナールに参加し、新たな仲間と学びや交流を深める

すべてのカレッジ生がゼミナールに参加します。カレッジでは、いずれかのゼミナールに所属し、経験豊富な担当教員の指導の下、新しい仲間との討議等により、学びや交流を深めていきます。ゼミナールでは、グループ別の学習や複数の

クラス合同の授業等、多様な学び方を組み合わせて、お互いの学びや交流が深まるよう、工夫を凝らします。年度末には、カレッジ生それぞれが、修了論文を作成して、仲間やご家族、学部生などの前でその成果を発表していただきます。

東京の持つあらゆる資源を活用した多彩なフィールドワーク

東京都立大学プレミアム・カレッジは、教室での学びだけでなく、実際の「現場」で「五感で理解」することも大切にします。東京都立大学は、東京都が設置した唯一の公立大学法人であり、東京都等と緊密な連携関係を築いています。その連携等に基づき、東京都が有する多様な施策の最前線を

学びの場として活用します。水害を軽減するため、環状七号線の下に存在する巨大な地下調節池の視察や、東京の島の自然を学ぶ合宿形式の体験学習など、教室での理解をさらに深めるフィールドワークは、他ではなかなか経験できません。

学びを通じた都立大生等との異世代交流

東京都立大学プレミアム・カレッジは、その独自のカリキュラムが大きな魅力ですが、加えて、東京都立大学の学部生対象に実施している科目について、一部受講できることも特徴として挙げられます。これにより、カレッジ生が学部生など

と肩を並べて学び、交流する機会を持つことができます。また、カレッジのアシスタントとして、学部生や大学院生を積極的に活用し、きめ細かい支援を実現するとともに、異世代交流も促進していきます。

快適で充実した学習環境

カレッジ生専用のラウンジ(P.18参照)や、カレッジ生が落ち着いて学び・交流することが可能な拠点を確保するほか、学食や図書館、情報処理教室(パソコンルーム)の利用など学部生と同様に充実したキャンパスライフを送っていただく

ための環境を整備しています。個人メールアドレスの付与や専用ロッカーの貸与に加え、東京都立大学オープンユニバーシティ(P.29参照)の会員資格を得ることができるなど、カレッジ生の多様な学習ニーズに応える、充実した学習環境を提供します。

修了生には、法に基づく「履修証明(certificate)」を授与

東京都立大学プレミアム・カレッジのカリキュラムは、学校教育法に基づく体系的な学びの修了を証明する「履修

証明プログラム」に位置付けられます。修了生には、同法に基づく「履修証明(certificate)」を授与します。

※なお、東京都立大学プレミアム・カレッジは学校教育法第1条に基づく正規の大学の課程ではないため、修了した場合も、学位を取得することはできません。

更なる学びの意欲に応える2年目以降のプログラム

東京都立大学プレミアム・カレッジは、本科(1年目)を修了後、引き続きカレッジで学び続けたいというニーズに応えるため、専攻科(2年目)及び研究生コース(3~4年目)を設置しています。専攻科では、本科修了後、本カレッジが開講する多様な科目のうち、本科で履修できなかった科目を履修することができます*。また、本科と同様、すべての専攻科生がゼミ

ナールに所属し、本科より一歩進んだ修了論文を作成します。研究生コースでは、専攻科修了後、自身の興味・関心のある分野を、最長2年間、自主的・主体的に研究することができます。本学の施設(図書館・パソコンルームなど)を利用できるとともに、研究担当教員の定期的な超少人数指導(月数回程度)などにより、専門的な研究活動をサポートします。

*一定の制限を設けた上で、本科で既に履修した科目を履修することもできます。

ご挨拶

東京都立大学プレミアム・カレッジ カレッジ長挨拶



東京都立大学 学長特任補佐 **可知 直毅**

「東京都立大学プレミアム・カレッジ」は、様々な人生経験を積んだ50歳以上の方々が、その後の人生を、より豊かに充実したものとするための一つの契機、場となることを願い2019年4月に東京都立大学南大沢キャンパスに開講いたしました。現在、本科・専攻科・研究生コースあわせて約100名の方々が、この新たな「学び」と「交流」の場で、充実した日々を過ごされています。カレッジでは、豊富な経験と高い実績を有するカレッジ専任の教授陣を中心に、「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマとし、現地で体感できる多彩なフィールド

ワークと文理融合の科目、さらに必修科目としての少人数ゼミナールなどを含めた体系的なカリキュラムをご提供いたします。また、施設面でも、専用のラウンジや個人ロッカーを整備するなど、快適で充実したカレッジ生活を送れるようサポートいたします。

東京都立大学プレミアム・カレッジは、生涯現役社会の構築に向けた取組を一層推進し、皆様の学びの意欲に応えてまいります。是非、プレミアム・カレッジで、多様な経歴を持ち意欲あふれる仲間の方々と「主体的な学修」を経験してみましよう。

東京都立大学 学長挨拶



東京都立大学 学長 **大橋 隆哉**

東京都立大学は、国内大学屈指の研究力を基盤とし、その研究が質の高い大学教育へ循環することによる豊かな教育研究資源を有することが大きな特徴です。シニア世代の方々からの「大学レベルの学問を体系的・主体的に学びたい」との熱心なご要望をもとに、2019年4月に東京都立大学プレミアム・カレッジを開講いたしました。本カレッジでは、本学が擁する幅広い教育研究資源を十分に活用したカリキュラムをご提供するとともに、東京都が設置する唯一の公立総合大学である強みを最大限発揮し、都が有する行政の現場や東京近郊

の多様な施設を、フィールドワークとして実地に学べる講座も盛り込んでおります。生涯学習の資源として、このように体系的な学びの場と多彩な講座を、これだけの質・規模で提供しているのは、おそらく本学以外にはないと自負しています。新しい仲間に出会い、ゼミ・講義・フィールドワークに参加し学問へ広く取り組むことに加えて、特定のテーマを探究することを通じて自分の世界を大きく広げてください。学ぶことは魂を解き放ちます。本カレッジは意欲に溢れた皆さんのチャレンジを心より歓迎いたします。

東京都立大学プレミアム・カレッジの教育 (3つのポリシー) ~「求める学生像」等~

アドミッション・ポリシー (入学者の受入れに関する方針)

東京都立大学プレミアム・カレッジでは、次のような資質を有するカレッジ生を求めています。

求める学生像

1. 知的好奇心にあふれ、未知のものにチャレンジする人
2. 人とのかかわりを大切にし、これまでの人生経験や本学での学びの成果を、社会に還元するなど、社会に貢献する人
3. 独創的な発想に富み個性豊かで、仲間の発想や個性を尊重できる人
4. 学びの意欲に富み、努力を惜しまない人

入学前までに備えているべき能力

1. 高等学校卒業程度の基礎的な学力と知識
2. 基礎的な言語能力に基づく思考力と表現力
3. 東京の都市課題や、一般教養分野に関する広い関心と強い探求心
4. とともに学ぶ仲間や学部生等を尊重し、学び合い、高め合うことのできる社会性・コミュニケーション能力

ディプロマ・ポリシー (修了証書授与の方針)

育成する人物像

東京都立大学プレミアム・カレッジは、多様な人生経験などを有するカレッジ生に対し、人類共有の知的財産である学術研究に裏打ちされた専門分野の基本的な知識・理解及び幅広い教養を身に付けさせるとともに、普遍的に有用性を持つ能力を獲得させ、首都東京や地域などの諸課題の解決に貢献し、修了後、社会で更なる活躍が可能となる人材の育成を図る。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

教育課程編成の基本的考え方

東京都立大学プレミアム・カレッジは、「必修科目」、「選択科目」及び「アドリショナル科目」により、学習分野の基本的な知識・理解、幅広い分野の教養及び普遍的に有用性を持つ能力を獲得・強化できるよう、各開講科目の履修により獲得できる能力を明示する。これらにより、東京都立大学プレミアム・カレッジに相応しい、学習成果の幅と深さを確保できる体系的な教育課程を編成する。

東京都立大学プレミアム・カレッジの カリキュラムについて

カリキュラムの概要

カリキュラムのテーマ

「首都・東京をフィールドに学ぶ ～江戸・東京そしてTOKYOへ
“伝統”と“革新”が共存する、首都・東京の豊富な資源を最大限活用したカリキュラム～」

主な特徴

独自の幅広いカリキュラム 東京都立大学プレミアム・カレッジ専任の教授陣や東京都立大学の教員などにより、独自のカリキュラムを提供します。

豊富な授業

「プログラム科目群」では、江戸・東京の「歴史」や首都・東京の「まち」、「都市課題」について、様々な専門分野の視点から深く・広く学ぶことができます。「教養科目群」では、社会学をはじめ、食生活と健康や心理学など人間・健康をテーマとする科目及び日本の国の成り立ちや日本美術、科学的な視点からの遺跡の解説など、幅広いテーマの科目を自ら選択して学ぶことができます。さらに、プレミアム・カレッジでの学びにおいて必須となる大学内の情報環境やeラーニングシステム等に関する基礎的な知識、研究活動を始めるにあたって必要となる一般的な知識や論文作成のためのライティング等のスキルもしっかり学ぶことができます。

ゼミナール

ゼミナールは、担当教員と5～10名程度の少人数の学生がグループで研究活動を行う授業を指します。プレミアム・カレッジでは、カレッジ生自らの調査研究や発表、論議が授業内容の中心となり、ゼミナールにおける主体的な学習を全体のカリキュラムの中心と位置付けています。カレッジ生が個人またはグループで研究テーマを設定し、調査と分析を進めて修了論文を作成します。年度末の成果発表会では修了論文を取りまとめた内容をプレゼンテーションします。

多彩な フィールドワーク

教室内での講義に加え、現場で「五感で理解」することを重視します。東京都などとの緊密な連携関係に基づき、都政の広大な施策の現場を活用したフィールドワークを、授業に積極的に盛り込んでいきます。

カリキュラムの基本情報

- 1年を「前期（4月～9月）」、「後期（10月～3月）」に分け、授業を実施します。
- 必修科目は全員が履修しますが、それ以外の科目（選択科目、アドイショナル科目）は、自身で希望の科目を選択し、事前に登録をした上で履修します。
- アドイショナル科目には、夏季休業中などに実施する「夏季・春季等集中講座」もあります。
- 修了（卒業）するには、一定の要件（修了要件）があります。（詳細はP.26参照）

カリキュラムの構成

カリキュラムは、大きく「必修科目」、「選択科目」、「アドイショナル科目」の3つに分類されます。「必修科目」はカレッジ生全員が履修する科目で、前期・後期のゼミナールなどにより構成されています。「選択科目」は「プログラム科目群」と「教養科目群」という2つの分野で構成されます。それぞれ受講する科目を選んで履修するもので、一定数以上の選択科目を履修することが修了要件となります。「アドイショナル科目」は、履修が修了要件にはならないものの、東京都立大学の全学部生に開放されている全学共通科目を一部受講することができる「科目等履修」のほか、パソコン技術、その他夏季・春季等集中講座等バラエティに富んだ科目を、カレッジ生の選択により受講することができるものです。

カリキュラム構成概要

区分	科目概要	履修について（詳細P.26参照）
必修科目 （詳細P.8参照）	カレッジ生はゼミナールのいずれかのクラスに所属し、カレッジ生同士や担当教員との意見交換や、修了論文の作成等を実施 本科のみ、研究倫理やアカデミック・ライティング、情報リテラシーの基礎を学ぶ	●全科目履修することが修了要件 ●年度末の成果発表会で研究成果を発表することを予定
選択科目 （詳細P.8～参照）	<p>プログラム科目群</p> <p>「東京・都市」をキーワードとする科目群。歴史や都市基盤・自然など、様々な角度から「東京」への理解を深める科目群（3つのテーマに分かれる）</p> <p>教養科目群</p> <p>カレッジ生の幅広い関心に応えるべく、幅広い分野の教養科目を開設</p>	<p>●4科目以上履修することが修了要件</p> <p>●カレッジ生が履修する科目を選択</p> <p>●2科目以上履修することが修了要件</p> <p>●カレッジ生が履修する科目を選択</p>
アドイショナル科目 （詳細P.13～参照）	<p>基幹科目となる「必修科目」と「選択科目」の学びを補完し、より幅広い知識と教養を身に付けるための科目群</p> <p>○学部生対象の授業を一部履修可能（科目等履修※P.14参照） ○パソコン技術（本科のみ（履修制限あり）） ○きらぼし銀行金融講座 ○夏季・春季等集中講座、講演会（随時開催予定）</p>	<p>●修了要件外</p> <p>●カレッジ生が履修する科目を選択</p>

カリキュラムの内容 (授業科目の概要)

※講座名や内容・担当教員などは2023年4月現在のものです。 ※2024年度については変更となる場合もあります。
※「講座名」横の○回は授業予定回数です。

必修科目

情報リテラシー基礎 4回

東京都立大学大学教育センター
永井正洋教授、伏木田稚子准教授、安藤大地准教授、根元裕樹特任准教授

本学においてコンピュータやネットワークシステムを利用する上で必須となる情報倫理、学内の情報環境、eラーニングシステム「kibaco」等に関する基礎的な知識を習得する。

研究を始める前に ~研究倫理とリテラシー~ 4回

東京都立大学プレミアム・カレッジ
児玉謙太郎准教授

研究活動を始めるにあたり必要となる一般的な知識として「研究とは何か?」「守るべきルールは?」「必要なスキルは?」について、研究倫理、情報リテラシー、研究計画、学術的コミュニケーション、調査法といったキーワードに基づき学ぶ。また、授業ノート、レポート、論文の作成に必要なノートテイキング、ライティングの基礎知識と実践的スキルについても解説する。

前期ゼミナール及び後期ゼミナール 24回

ゼミナール担当教員

前期ゼミナールでは、各ゼミナールのクラスにおいて、テーマに沿った調査検討・討議等により、後期に作成する論文の基礎となる調査方法や発表方法を学ぶとともに、カレッジ生や担当教員等との活発な議論により、深い学びと相互の交流を深める。後期ゼミナールでは、各自、研究テーマを定め、担当教員の指導の下、修了論文を作成する。そして、年度末には、東京都立大学プレミアム・カレッジの学びの集大成として、その研究成果を「成果発表会」でカレッジの仲間や、ご家族、学部生等にプレゼンテーションすることを目標とする。

選択科目 (プログラム科目群) テーマ ① 江戸・東京の「歴史」から学ぶ

江戸・東京まちづくり物語 12回

東秀紀 (東京都立大学 非常勤講師)

この授業は、徳川家康が江戸に来て以来430年にわたる「まちづくり」の歴史を、わかりやすく皆さんにお話しようというもの。家康はじめ、大岡越前、渋沢栄一、後藤新平らの人々や、振袖火事、富士山噴火、関東大震災、東京大空襲らの災害を中心に置き、浮世絵や写真も含めながら進める予定。都市計画だけでなく、落語、歌舞伎、美術や建築、そして時には池波正太郎の時代小説も織り交ぜながら、江戸・東京の歴史、現在、未来をみなさんと一緒に、楽しく探っていきたい。

日本の古建築のみかた 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 山田幸正特任教授

我が国の歴史的建造物における様式・技術的な特徴を、建築の様式美や建築文化を探り、理解する。の種別や部位ごとに古代・中世まで遡りながら、古建築のもつ

「水」からみる江戸・東京の暮らしと文化 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 山田幸正特任教授
東京都立大学 市川憲良名誉教授
東京都立大学都市環境学部都市政策科学科 高道昌志助教

江戸・東京は、利根川、江戸川、墨田川、神田川などのほか、それらを網の目のようにつなぐ水路など水運に恵まれ、水運が発達した「水の都」でもある。江戸・東京における人々の暮らしや産業・生業にとって、「水」がどのような役割を果たしてきたのかについて、建築都市における基本的な水の機能、都市の生活文化や景観・デザインとのかかわりあい等も含めて考える。

東京地理入門 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 菊地俊夫特任教授

江戸および東京が何故、世界都市になったのか、あるいは何故、世界都市であり続けているのかを、東京を取り巻く自然環境や歴史・文化環境、社会・経済環境などから総合的に解き明かし、江戸や東京の地理的な性格を理解する。また、他の世界都市との比較を通じて東京の優位性・特徴も理解する。

文芸の中の江戸・東京 12回

東秀紀 (東京都立大学 非常勤講師)

芸術、文化において、舞台としての都市は大きな意味をもっている。「まちづくり」を主軸にした前期に続き、後期はその江戸・東京を舞台とした落語、浮世絵、歌舞伎から、近代日本文学、ミステリ、音楽、建築に至るまでの文芸作品を中心に、みていく。更に、東京と比較するため、ロンドン、パリなど西洋の都市についても取り上げる予定。

考古学で考える江戸・東京 12回

後藤宏樹 (東京都立大学 非常勤講師)
東京都立大学プレミアム・カレッジ 山田昌久特任教授

東京の地下に眠る江戸・明治期の遺跡から歴史を学ぶ。

選択科目 (プログラム科目群) テーマ ② 首都・東京を教材に「まち」を学ぶ

都市を育み、活かす技術 12回

東京都立大学都市環境学部都市基盤環境学科
横山勝英教授、今村能之教授、荒井康裕准教授

私たちが安心して快適に暮らし、生活の質を高めていくためには、生活と自然環境の調和を図り、安全で機能的な社会システムを有する都市空間を持続していく必要がある。その実現のためには、種々の都市基盤施設の整備とそれを支える技術が重要である。そこで本講義では、「生活環境を育み、活かす」といった役割を担う都市基盤技術をテーマに、都市の水及び資源の循環に焦点をあて、水資源、水環境、上下水道・リサイクル、沿岸・海洋環境などについて、具体的な例も挙げて講義する。

都市を造り、支えるインフラ 12回

東京都立大学都市環境学部都市基盤環境学科
村越潤教授、上野敦准教授、河田皓介助教

都市および周辺地域での「安全」、「安心」が社会のキーワードになってきている。普段意識することが少ない生活環境を支えるインフラに関し、都市のインフラを代表して、コンクリート構造物、橋梁と、それらを支える地盤と地下のトンネルについて、具体的な例も挙げて講義する。

多摩・島しょ地域の自然 12回

東京都立大学 可知直毅プレミアム・カレッジ長

多摩・島嶼地域の自然に対する理解を深め、その自然を活かした地域振興について考察する。

多摩ニュータウン物語 12回

東京都立大学都市環境学部建築学科 松本真澄助教、吉川徹教授
東京都立大学 上野淳名誉教授ほか

最初の入居が実現してから約50年が経過しようとしている多摩ニュータウンは、我が国最大のニュータウンである。居住者の高齢化、住宅ストックの老朽化等の影が忍び寄るが、その「いえと街の再生」は我が国の都市・住宅の将来にとって普遍的課題といえる。多摩ニュータウンの来し方、行く末をフィールドサーベイを交えながら議論する。

選択科目 (プログラム科目群) テーマ③ 東京の「都市課題」から学ぶ

社会学からみた都市の貧困問題 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 仁井田典子特任准教授

この授業では、社会的な観点からみると、都市における貧困問題とはどのようにとらえることができるのかについて学ぶ。特に、日本に滞在する外国人、女性、野宿者に注目し、彼ら・彼女らが

どのような状況におかれているのか、いかなる社会的世界を生き、どのような生きにくさを抱えているのかについてみていく。

都市の自然と里山 12回

東京都立大学 可知直毅プレミアム・カレッジ長

都市と里山の自然に対する理解を深め、自然に対する多様な価値観があることを認識し、人と自然の調和について考察する。

東京から考える Quality of Life 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 児玉謙太郎准教授

健康やQOL (Quality of Life: 生活の質・人生の質) を維持・向上させ、人生を豊かにする方法は様々。身体のみならず、社会的・文化的な活動の中で、他者とのコミュニケーションを通して得られ

る精神的・社会的な健康も重要。本科目では、東京で活躍する各分野の専門家・実践家を招いて、文化、アート、スポーツ、テクノロジーと健康・QOLの関係性を学び、それらについて多角的に考えていく。

防災と危機管理 12回

田邊揮司良 (東京都立大学 非常勤講師)

30年以内に70%の確率で発生が予測される首都直下地震災害、近年激甚化する豪雨被害、島しょ部における火山噴火や津波災害などの自然災害への東京都の対応を始め、テロ、サイバー、

感染症、弾道ミサイルなど都民生活や都市機能に多大な影響を及ぼす事態に対するわが国の危機管理の現状と課題、並びに個人でできる対策などについて講義する。

都政課題 (フィールドワーク) 8回

東京都立大学 可知直毅プレミアム・カレッジ長

本講座では、多様な行政のフィールドを抱える東京都の施策の最前線について、現場のフィールドワークを含めて実践的に学ぶ講座である。東京都の担当者(管理職等)などからの施策の説明とあわ

せて、ハード施設や試験研究施設をはじめとした現場の実態を、直接「見て、感じる」プログラムである。

選択科目 (教養科目群) テーマ① 都市・社会・環境

ボランティアの理論と実践 12回

林大介 (東京都立大学 非常勤講師)

ボランティア活動ならびにNPO組織と活動についての基礎知識について理解を深めるとともに、特徴的な企業による社会貢献、CSRも最新事例を用いて適宜取り上げる。一方的な講義だけでなく、随時、学生同士のディスカッションやワークショップ、

ゲストスピーカーとの対談などといった参加型で実施することを通して、カレッジ生時代及び修了後のフィールドにおいても、ボランティア・NPOに関わっていくことを目指す。

都市コミュニティ論 12回

玉野和志 (東京都立大学 非常勤講師)

都市とコミュニティをめぐる基本的な知識の修得を前提に、とりわけ日本における地方自治行政と住民生活との関係の歴史的な

変遷を題材に、自治と民主主義について考察する。

社会学入門: 社会問題からみる私たちの社会 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 仁井田典子特任准教授

社会学とは、私たちが生きる社会を観察対象とし、そこで生じる現象がどのような因果関係によって成り立っているのかについて明らかにする学問である。故に、社会学を学ぶことは、私たちが

『当たり前』『仕方ない』と思っていることは本当にそうなのか問い直すことにつながる。この授業では、具体的な社会問題を捉えていくことで、新しい社会的な課題を皆さんと一緒に考えていく。

地域環境学 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 菊地俊夫特任教授

人間は地域の環境に適応するため、さまざまな土地資源を有機的に組織化し利用してきた。地域環境学では地理学のフレームワークを援用して、人間が土地資源を利用する仕方を自然環境

の枠組みと社会・経済環境の枠組み、および歴史・文化環境の枠組みから総合的に理解する。

世界と日本の気候・風土と気候変動 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 松本淳特任教授

日本の気候とその風土、気候変動に対する理解を深めるために、前半は気候学の基礎と地球及び地域の環境問題を幅広く学ぶ。後半は東京も位置しているアジアモンスーンについて、グローバル

な視点から学ぶと共にアジアや日本の風土の特徴について理解する。

選択科目 (教養科目群) テーマ② 文化・言語・芸術・歴史

奈良の考古学で知る日本の国の成立過程 12回

橋本裕行 (東京都立大学 非常勤講師)
東京都立大学プレミアム・カレッジ 山田昌久特任教授

長年奈良県で遺跡発掘をされてきた橋本氏を講師としてお呼びし、弥生時代から古墳時代を経て飛鳥の地に最初の都城ができたり、奈良に律令国家ができたりする過程について講義を

お願いし、その後20分間程度の時間で担当教員や受講生と議論して、日本の国の成り立ちについて考える。

近代日本美術史 - 岡倉天心、横山大観と「日本画」の成立 - 12回

佐藤志乃
(東京都立大学 非常勤講師)

明治期、美術行政を動かし伝統美術復興に尽力した思想家・岡倉天心と、その傘下で実験的試みを展開した画家・横山大観。両者は画壇を牽引し、「日本画」の創出に尽力した。本講義では、彼ら

の事跡を中心に「日本画」成立の過程を追う。また、同時代の時粧風物や、思想、宗教、文学の動きなどと関連させて、近代日本史の流れのなかに「日本画」を位置付ける。

江戸から近代への日本美術の流れ ~ 伝統美術の流派 12回

佐藤志乃
(東京都立大学 非常勤講師)

和歌、古典文学、漢籍、俳句といった文芸や、仏教、道教などと密接に結びつき、それらから多くの題材を得てきた伝統美術は、西洋化の進む近代においてもなおその画題を失うことはなかった。

本講義では、江戸から明治にかけて日本人の美意識、想像力、信仰心、教養、遊び心がどう受け継がれたのかを、伝統諸派の絵画から読み解く。

縄文時代研究の最前線 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 山田昌久特任教授

第二次大戦後に日本の歴史の中に「縄文時代」が組み込まれたが、21世紀の歴史研究は国家史の始まる前の歴史の描き方が

見直されている。授業では、縄文時代の内容を整理しなおして、人類の集団形成や社会形成史のなかで捉えなおす。

外国語としての日本語 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 西郡仁朗特任教授

日本語を学んでいる外国人は400万人近く、また、日本に在留する外国人はコロナ禍で一時減少したとはいえ、増加に転じ、間もなく300万人を超える。昨今「日本語教育推進法」(2019)の制定をはじめ、外国人の生活・就労・留学等と日本語教育の充実

のための制度が策定されつつあり、大きく変動している。この授業では、外国語としての日本語、特に東京共通語について理解し、諸制度の成立と歴史、これからの課題を扱い、受講者の理解を深めていく。

西洋美術史 (古代~近世) 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 小石絵美准教授

都内には西洋美術を扱う展覧会が数多く開催されている。美術を楽しむ第一歩は、これらの美術作品に興味を持つことであろう。しかしながら、西洋の美術作品の意図を読み取るためには、ある程度の基礎知識が必要であることも事実である。そこで、本授業

では各時代の美術を代表する作品を例として取り上げ、作品を理解するための最も基本的な「視方」を身に着ける。目の前にある作品の色や形をただ見て楽しむ鑑賞から、作品の意図を読み取り、「理解する視方」へとステップ・アップする授業を目指す。

選択科目 (教養科目群) テーマ③ 生命・人間・健康

食生活と健康 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 篠田粧子特任教授

人生100年時代を健康に生きるために必要な栄養学の基礎知識を学ぶ。「たかが食べ物」と考えがちであるが、食品は先端科学の産物

でもある。溢れる情報に惑わされないために、系統的に知識を整理し、食生活が健康に及ぼす影響を理解することを目的とする。

生活の心理学 12回

東京都立大学学生サポートセンター
村松健司教授、駒屋雄高准教授、田中里実准教授

本授業では、ライフサイクルの時々で生じる心の問題について、臨床心理学的見地から考えていく。まず臨床心理学の成り立ちと発展の歴史を学び、いくつかの技法について実習を交えて

その基礎を学んでいく。さらにライフサイクルの時々心理的課題とその対処や支援について学ぶ。

自己分析の心理; 自分史を書くために 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ
永井徹特任教授

この授業では自分史を書くことを目的とする。そのための手掛かりとして、心理臨床の考え方を中心に解説して提示する。このような

考えや見方が自身の内省を深め、自分史を書くためのヒントや手掛かりなればと考えている。

生活機能障害概論 12回

東京都立大学健康福祉学部理学療法学科 浅川康吉教授
看護学科 河原加代子教授
作業療法学科 藺牟田洋美准教授、石橋裕准教授

日常生活の様相を多面的に捉える枠組みとして国際生活機能分類を学び、高齢者や障害者に生じる生活機能障害を理解する

とともに、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための支援方法について講義する。

対人関係とコミュニケーションの心理学 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ
渡部みさ特任教授

私たちの生活では、人と人との関わりあいの中で、様々なコミュニケーションが生まれる。この授業では、臨床心理学の見地から

これらの対人関係とコミュニケーションについて理解を深めていく。

選択科目 (教養科目群) テーマ④ 科学・技術・経済・産業

宇宙の謎に迫る 12回

東京都立大学 大橋隆哉学長

宇宙には惑星、星、銀河などの見える天体だけでなく、ブラックホールやダークマターなど特異な天体や物質が存在し、宇宙の

進化や構造形成の鍵を握っている。多くの謎に満ちた宇宙をどう観測し、その実態をどのように解き明かそうとするかについて学ぶ。

直立二足歩行による人類の拡散史 12回

太田正廣 (東京都立大学 非常勤講師)

本授業では、現生人類の祖先が遥か数百万年前に類人猿と分岐し、直立二足歩行し始めた理由を皆さんと一緒に考えてみたい。狩猟採集時代の祖先は、非常に厳しい他の動物との生存競争を生き延び、気候の大変動と闘い、数十万年かけて世界中に拡散した

理由を議論したい。現生動物たちの骨格構造・筋肉構造・視覚・聴覚・嗅覚等・呼吸・脳・前肢等を概観・推測し、人類誕生前から古動物たちは如何に五体・五感を進化させながら生き残り、何を得て何を失ったのか、を考えていく。

拡散手段進化による人類の拡散史 12回

太田正廣 (東京都立大学 非常勤講師)

ヒトの祖先は、約700万年前頃から直立二足歩行で地上を歩き始め、アフリカ大地から世界中に移動・拡散を開始した。自身の足を使って移動しだしたヒトは、その後、馬や牛などの動物を使いこなし、帆船を操り、汽車・自動車・鉄道・地下鉄・航空機・ロケットで、より早く、高く、広く、遠く、深く、地上・地下・海上・

海中・空中・宇宙を拡散している。拡散する手段を人間はどのようにして手に入れたのかを、俯瞰的に歴史的に技術的に眺めてみながら、その手段が如何に進化してきたか、将来に向けてどのような変貌を遂げ進化して行くかを考えていく。

企業経営と社会 12回

桑田耕太郎 (東京都立大学 非常勤講師)

経営学は、現代社会の基礎的な構成要素としての企業を対象として、企業とそのベースとなっている社会の構造や行動のメカニズム

を解明することを目的としている。この授業では、経営学の考え方や現実の企業の行動を理解するための基礎知識について講義する。

自然を見る目を養う (自然地理学の基礎) 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ
松本淳特任教授

東京の多様な自然に対する理解を深めるために、自然地理学の基礎を幅広く学ぶ。

アドショナル科目

パソコン技術 12回

東京都立大学大学教育センター 永井正洋教授、伏木田稚子准教授
学術情報基盤センター 渡邊美紀助教

コンピュータやネットワークシステムに関する知識を習得すると共に、それらを活用して具体的な課題解決に取り組む。

きらぼし銀行金融講座 後期集中 5回

東京きらぼしフィナンシャルグループきらぼし銀行

金融・経済は、政治動向、技術革新、自然環境など、あらゆるものの影響を受けて常に変化している。本講座では、「金融や経済を取り巻く国内・海外の動向」、「デジタル化が進む社会」について

解説し、将来に向けた「資産運用」、「相続」など資産形成の方法について解説する。金融機関の第一線にいる役員・社員が現場の経験や具体的な事例を交えながら、分かりやすい講義を行う。

東京農業の今とこれから 夏季集中

公益財団法人東京都農林水産振興財団

「東京農業の今とこれから」をテーマに、東京農業の特徴や研究開発の最前線を学ぶ。具体的には、バラエティ豊かな東京農業の現状、伝統ある江戸東京野菜、東京オリジナル品種、ICTを活用した先端的生産システムなどについて、東京都農林総合研究

センターの研究施設のフィールドワークも織り交ぜた授業を展開する。現場で活躍する研究員からの講義等により、東京農業への理解を深めていく。

江戸・東京の建築文化に触れる (フィールドワーク) 夏季集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ
山田幸正特任教授

プログラム科目「日本の古建築のみかた」で習得した知識などを踏まえ、博物館の模型・展示品、実際の建築物などを見学し、

江戸・東京の建築文化をより深く理解する。

東京下町探訪 ~谷根千のまち歩き発見~ 夏季集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ
山田幸正特任教授

アクティブラーニングの一環として、実際の東京下町における見どころやその文化的意味を、受講者間で提案・企画しながら、

見学資料などを作成し、互いに説明・意見交換しながら現地見学する。

パソコン技術 (プレゼンテーション基礎) 夏季集中

東京都立大学大学教育センター
伏木田稚子准教授

プレゼンテーションの意義・目的、内容と構成、準備に関する知識を理解した上で、ソフトウェアを活用してスライドを作成し、

研究発表のためのプレゼンテーションを実践する。

ジャポニスムと美術品の貿易 夏季集中

宮崎克己 (東京都立大学 非常勤講師)

近代にいたるまで日本と西洋の間の文化交流の中で、人の往来とともに重要だったのが、美術工芸品の輸出入だった。この授業

ではジャポニスムを中心に美術における文化交流を、とりわけ貿易という観点で考える。

グローバル社会で暮らすための異文化コミュニケーション 夏季集中

小柳志津
(東京都立大学 非常勤講師)

この授業では、文化接触におけるコミュニケーションや心理についての基本的な理論を身近な出来事やニュースから理解し、みなさんの経験も交えたディスカッションを通して考える。

加えて、みなさんがグローバル化する社会とどのように関わっていくかを計画し、実行していくための準備やスキルアップも大きなテーマとしている。

ライフスタイル健康科学 夏季集中

稲山貴代 (東京都立大学 非常勤講師)

ライフステージやライフスタイルによって、健康状態や健康課題は変わる。科学的根拠、ヘルスリテラシー(情報へのアクセス・理解・判断・活用)を学び、根拠に基づく健康づくりについて考える。

栄養・食生活と身体活動(運動と生活活動)の考え方、アセスメントと目標、実践と評価など、自身でマネジメントできる力を養うことを目指す。

分子栄養学が開く栄養素吸収のブラックボックス 夏季集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ
篠田粧子特任教授

栄養研究に分子生物学の手法が導入され、これまで解明が難しかったブラックボックスの扉が開きつつある。栄養素の消化・吸収を分子のレベルで見ると何が見えてくるのか。生体では多種

多様な物質の反応が同時進行しているが、ここでは消化管での鉄吸収を題材に取り上げ、生体物質の応答を例に分子栄養学の基礎を学ぶ。

実習で学ぶバイオメカニクス 夏季集中

東京都立大学システムデザイン学部機械システム工学科
藤江裕道教授、坂元尚哉准教授、三好洋美准教授、伊井仁志准教授

生体现象を力学観点で捉えるバイオメカニクスにおいて、関節・血流・血圧・細胞を具体的な対象とした講義と実習を行う。

わが国の総合安全保障と危機管理 夏季集中

田邊揮司良 (東京都立大学 非常勤講師)

世界の覇権をめぐる米中対立が激化する中、わが国が置かれた安全保障環境は厳しさを増し、それは軍事的対立に限らず、経済、最新技術を巡る熾烈な競争の狭間にある。本講義では、わが国の

安全保障環境を、外交・軍事だけではなく経済、社会などの要因を含め総合的に概観するとともに、最新情勢の現状分析、安保関連三文書の概要、課題について概説する。

実験で学ぶ金ナノ粒子触媒と環境触媒 夏季集中

東京都立大学大学院都市環境科学研究科
村山徹特任教授

金ナノ粒子触媒や環境触媒の背景および基礎知識を講義によって理解し、化学実験を通して触媒反応について理解を深める。

現代テクノロジーとデータ科学 夏季集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ 児玉謙太郎准教授

現在、インターネットの普及、AIやロボットの登場など様々な技術革新により、私たちの社会や生活は大きく変化している。これら科学技術では、様々なデジタルデータが生成・伝達・活用されている。その際、情報科学や統計学に基づくデータ科学(データサイエンス)も注目されている。

本科目では、パソコン、インターネット、AI、ロボットといった現代テクノロジーの仕組みや事例、注意点などを情報学や情報社会論の観点から概説する。また、データ科学というアプローチの概要と実践について紹介し、身近なデータの収集・分析についても体験的に学ぶことで、それらの可能性と課題を考える。

東京地理入門 フィールドワーク 後期集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ 菊地俊夫特任教授

座学として履修した「東京地理入門」の内容をより深く理解するため、東京地理入門のフィールドワークを実施する。このフィールドワークの方針は、「あるく、みる、きく、味わう、考える」といった

基本的な地理の手法を用いて、景観を観察し、土地や地域の性格を理解する。

東京の「離島」を学ぶ(現地フィールドワーク:宿泊付) 春季集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ
菊地俊夫特任教授

東京都は、大都市を抱えるだけでなく、日本の海洋の40%近くを有する海洋都市でもある。八丈島は、都心から約300km南の伊豆諸島の最南部に位置する火山島である。活火山の三原山など豊かな自然環境を有するとともに、長い歴史と特徴ある生活

文化や産業経済をもつ。このような八丈島をフィールドとして、自然、歴史、社会・経済(産業)、生活文化を観察し体験しながら、地域の性格を明らかにする。

科目等履修(全学共通科目)(東京都立大学プレミアム・カレッジ) 学部の授業回数(半期15回)に準じる

各科目担当教員

東京都立大学の科目等履修として開放されている、全学共通科目約100科目について、一定の制限の下、受講することが可能。授業回数は学部の回数(半期15回)に準じる。

○カレッジ生1人当たり、前後期各1科目、合計2科目を上限に受講可能
○1科目当たりの履修上限人数あり(重複の場合は抽選)
○対象科目は、科目等履修により開放されている科目のうち、全学共通科目

ゼミナール担当教員からのメッセージ

カレッジ生とともに、ゼミナールで学ぶ担当教員からのメッセージです。

東京都立大学が誇る強力な教授陣が皆さまの学びと交流をサポートいたします。

※2023年4月現在の担当教員です。2024年度については変更となる場合があります。



永井 徹

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は臨床心理学。児童期から思春期・青年期の心理支援と親面接を専門、現場で虐待、不登校、ひきこもりなどの問題に接している専門家への支援、さらに心理支援における、プレイ、イメージ、夢などの自己表現法を支援者自身の課題と関わり方を含めて研究。川崎市子ども家庭センター、横浜青少年相談センター、横浜いのちの電話等のスーパーヴァイザー、横浜市いじめ問題調査委員会委員など。

私のゼミではそれぞれの参加者の皆さんのご自身の体験を踏まえたうえで、それを足場として、様々なところの問題や課題について、広く社会や家族の課題も含めつつ理解を深めていけたらと思っています。私自身の臨床心理的な基本

的な見方や実践についても提示しようかと思いますが、既存の枠組みにとらわれずに、ひとり一人の参加者の皆さんがその取り組みを通じての自分自身への気づきや自己体験の広がりを持てるようになればと思っています。



渡部 みさ

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は臨床心理学、思春期・青年期心理臨床。臨床心理士・公認心理師。日本学生相談学会理事、全国学生相談機関代表者協議会監事、全国学生相談研究会講師等を務めた。主に教育分野の心理臨床実践と、それに基づいた研究を行ってきた。面接構造や連携の研究、描画や箱庭といったイメージに関する研究がある。

人生50年だった戦国時代から人生100年の時代へ…。50歳は人生の終着点から折り返し点に変わりました。ただ、単純に時間が倍になる訳もなく、折り返し点からの時の流れは速く感じられます。人生の残り時間を意識して「何をすべきか」「何をしたいか」考えあぐねながら、雑事に追われる毎日になりがちです。焦りばかりでは何も手に

つかないですし、諦めてしまっただけでは何も始まりません。そんな時、何かを変えるきっかけになるのが「学び」かもしれません。「50歳からの学び舎」は、若かりし日々が呼び覚まされる場であり、50歳過ぎた今だからこそ過ごせる特別な時間でもあります。そんな学び舎で皆さまとご一緒できますことを、楽しみにしております。



西郡 仁朗

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は日本語教育学。外国語としての日本語の特徴を研究してきた。また、日本人と外国の方との多文化共生について、基礎研究、現場・施策、交流事業、教材開発にも関わってきた。特に、最近は看護と介護福祉分野の日本語教育や外国人材の受け入れと交流の問題について力を注いでいる。

研究の出発点は外国人の日本語学習者が日本語の音声の「カテゴリー的知覚」という言語と心理を背景としたものでしたが、その後多くの教育現場で日本語の学習者と接し、交流・支援することに大きな喜びを感じてきました。「日本台湾交流協会(大使館相当機関)」「国際協力機構(JICA)」の沖縄センター、「東京外国語大学留学生日本語教育センター」、そして1994年以降は東京都立大学です。どの組織でも現場教育・大学院での研究・教材開発などと取り組み日本語教育のこれまでの変遷を現場でみてきました。

現在日本語を学んでいる外国人は400万人近くになり、また、日本に在留する外国人はコロナ禍で一時減少したとはいえ、増加に転じ、間もなく300万人を超えそうです。ここ数年「日本語教育推進法」(2019)の制定をはじめ、日本語教育や学習者への配慮が外国人の生活・就労・留学等と日本語教育の充実のための制度が策定されつつあり、大きく変動しています。プレミアム・カレッジでは、日本語教育のみならず受講生の皆さんと話し合いながら様々な分野を考究していくことを嬉しく思っています。



山田 昌久

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は考古学。旧石器時代から江戸時代の遺跡調査、民俗誌考古学・実験考古学によって生活文化史を研究している。最近3~4万年前の人類の日本列島到達研究が、NHKスペシャルで取り上げられている。日本考古学協会理事や全国の遺跡調査指導委員・国史跡の整備委員会委員を務める。

私は日本文化を世界史の中で考えようと、ロシア・韓国・中国・香港・ベトナム・エジプトなどで遺跡調査・民族誌調査を行ってきました。特に「日本人と木(植物)の文化」の形成過程を追及してきました。歴史・文化の学びからは、日本・東京を知る鍵が沢山見いだせます。たとえば、「七夕」というのは、古墳時代に伝わった棚の上に各部材を組んだアジアの「棚機(たなばた)」、

牽牛・織女の言い伝えに起源があります。雅楽の「琴や笙」は中国の戦国~漢代の王墓に残された楽器にその原型があります。入り組んだ谷と利根川・荒川の氾濫する地で行われた江戸の町づくりは、大胆な空間計画と土地改造で達成されました。皆さんと学ぶ日本・東京の文化や歴史には、教科書には無いたくさんの事実が潜んでいるでしょう。



松本 淳

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は気候学、気象学、自然地理学。日本やアジアを中心とした世界のモンスーン気候について、季節変化や極端降雨の発生機構、気候変動等についての研究を行っている。気候変動や気候環境が、農業などの人間活動や人間の健康に及ぼす影響についても研究をしている。

最近ある人から、何かを成し遂げるのに必要なのは3つの「や」である、と教わりました。「や」る気、「や」り方、「や」る仲間の3つの「や」です。やる気に満ちた皆さんに必要なのは、それを実現するためのやり方の習得と、一緒にそれを実現する仲間です。この世の中の自然や環境・人間

社会には、実はわからない事が沢山あります。ゼミの仲間たちと一緒にやり方を考えて、今までわからなかったことをわかることに変える喜びを、共に味わいたく思います。私の専門は、自然地理学の気候学でしたが、皆さんのやる気があれば、一緒にどんなことでも学んでいきたいと思います。



山田 幸正

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は建築史学、文化遺産保存。2004年 UNESCO Asia-Pacific Heritage Conservation Awardsを受賞。文化庁文化審議会世界文化遺産部会の委員を務めるほか、日本イコモス国内委員会や地中海学会などで幅広く活躍中。

世の中では「人生100年時代」とか「生涯現役」と言われています。皆さんはこれまで家族のため、会社のために考え、研鑽を積み努力されてきたと思います。どうでしょう、これからの人生は、これまでの経験やノウハウをベースにしながら、自分のために自分で考えて行動してみたら。そのためにももう一度、大学という場に身を置き、これまで知らなかった、知ろうとしなかったことにも向き合い、いろいろな興味や関心をもった仲間と語り合う

ことで、「NEXT」がみえてくるのではないのでしょうか。私の専門は建築史ですので、古建築や伝統的町並みに秘められた「時間を宿した空間」を再発見し味わうための見方・楽しみ方をお話しましょう。文化的感性を磨き、建築や都市にみられる豊かさを活かせるようなクリエイティブな人材となることもひとつの選択肢ではないでしょうか。我々とともに、時代の転換を感知し、行動をおこしてほしいと思います。



菊地 俊夫

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は地理学、地誌学。公益社団法人日本地理学会理事長や地理空間学会会長を歴任。農村空間の商品化や農村の持続的発展、およびフードツーリズムやワインツーリズムなどに関する実証的な研究を行い、それらに関する著作を多く出版している。また、オーストラリアやニュージーランドに留学した経験を生かして外国地誌の研究や出版も多い。最近では、東京の地誌的な研究にも意欲的に取り組んでいる。

私の専門は地理学で、景観(風景)から「地」の「理」を「学」ぶことにこだわって研究しています。多くの研究では、地域の自然環境や歴史・文化環境や社会・経済環境を理解し、それらの環境条件を総合的に考察して、地域の性格が明らかされて

います。つまり、地域の自然環境や歴史・文化環境や社会・経済環境を学び、それらをジグソーパズルのピースのように埋め込んで、地域の性格という絵を完成させることができます。そのような絵を完成させることが「地」の「理」の「学」ぶことなのです。



篠田 粧子

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は栄養生化学、応用栄養学。日本栄養・食料学会参与。東京都消費生活総合センター、羽村市消費生活センターの運営委員を務め、長年にわたって地域の消費者活動に貢献している。米国の大学で栄養学を学んだ経験から、日本の食生活が世界に誇れるものであると実感し、食生活改善の啓蒙活動にも力を注いでいる。

"We are what we ate." 私たちの体は、食べることで常に作り替えられています。何を食べる? いつ食べる? 生活習慣病との関係は? 食べ物はどこから来る? 食糧の自給は? テーマは無限に広がります。「食」という視点から見ると、今まで見えなかったことに気がつくかもしれません。

自由にテーマを決めて取り組む自分のための勉強はなんて面白い! ゼミ生が生き生きと研究テーマに取り組むなかで、私も多くを学んでいます。分野の異なる生活を積み重ねてきた方たちから刺激を受け、前向きにディスカッションできる機会はとても貴重です。一緒に、知的好奇心の森へ分け入りましょう。



児玉 謙太郎

東京都立大学
プレミアム・カレッジ准教授

専門は心理学・認知科学・身体運動科学。博士(情報学)。ヒトの身体運動や知覚、コミュニケーション、健康に関する基礎研究に従事。また、理学療法士・作業療法士・臨床心理士らとの共同研究も実施。人工知能学会の身体知研究会では幹事を務め、同学会の編集委員も務めている。

私は、こころ(心理)、からだ(運動)、あたま(認知)の関係性に興味があり、人間を対象とした様々な実験的研究を行っています。例えば、人間がどのように環境を知覚し行動しているかを調べ、リハビリテーションの実践や、人間をサポートする人工システムへの応用を目指しています。現代では、ロボットや人工知能が私たちの生活や社会に浸透し始め、改めて「人間らしさ」や「人との

関わり」について問い直されているように思います。私のゼミでは、幅広くテーマを募集し、様々なバックグラウンドをもつ仲間とのディスカッションを通し、人間ならではの能力や特性を理解できるような研究を進めています。多様で変動的な時代に柔軟に適応していけるスキルを皆さんと一緒に磨いていけたらと思います。



小石 絵美

東京都立大学
プレミアム・カレッジ准教授

専門は西洋美術史。西洋古代美術史、なかでも青銅器時代のギリシアで栄えたエーゲ文明の美術について研究している。ギリシアおよびドイツにおける長期留学の経験を活かし、海外の考古学研究所や遺跡・博物館の現地調査を積極的に研究に取り組んでいる。古代ギリシア、バルテノン神殿についての共同研究調査バルテノン・プロジェクト・ジャパンにも参加。狭義の専門は青銅器時代のギリシア美術の研究だが、西洋美術史全体を広く視野に入れている。

私は西洋美術史を専門にしています。この学問の魅力の一つは作品というモノを通し、当時の社会や人々を知ることだと思います。これまで多くの芸術作品が作られ、美術館・博物館で展示されています。こうした作品数々の作品を生み出した芸術家たちも、それぞれが属した時代や地域の社会と文化の中で暮らしていました。その時代や社会に生きていたからこそ、その境遇

にあったからこそ生み出された作品が沢山あります。プレミアム・カレッジに興味をお持ちの皆さんは、きっと経験豊富な方々ですから、ぜひ皆さんご自身の経験を十二分に活かした研究に取り組んで頂きたいと思います。皆さんだからこそ分かること、調べてみたいことがきっとあるはず。カレッジ生仲間とともに、時に楽しく、時に真剣勝負と一緒に研究を深めていきましょう。



仁井田 典子

東京都立大学
プレミアム・カレッジ特任教授

専門は社会学(労働問題)。東京都立大学人文科学研究科客員研究員。インタビューや参与観察といったフィールドワークを行い、現在の日本社会において不安定な就業状況におかれた労働者たち(特に若者や女性)がどのような生きにくさを抱えているのかについて研究している。

私の専門である社会学は、私たちが生きる社会を観察対象とする学問です。労働問題や貧困といった、身の周りで起こっている社会現象をテーマとして扱います。人生経験が豊かで多様なバックグラウンドを持ったカレッジ生のみなさんとの

対話を通して、現在の日本社会とはどのような社会であり、どのような問題を抱えているのかについて、考えを掘り下げていきたいと思います。みなさんとの世代を超えた交流により、私自身の他者理解が深まっていくことを楽しみにしています。

プレミアム・カレッジの特徴

ご挨拶/求める学生像

カリキュラムの概要・構成

カリキュラムの内容

ゼミナール担当教員からのメッセージ

学生生活・キャンパス

年間スケジュール(予定)入学選考について

修了要件/履修の上限/修了後

FAQ

東京都立大学プレミアム・カレッジでの 学生生活について

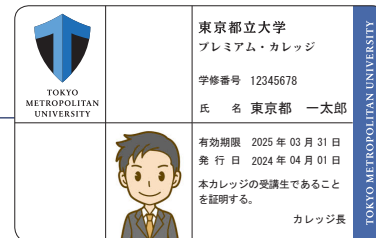
東京都立大学プレミアム・カレッジでは、充実したキャンパスライフを送っていただくため、カレッジ生専用のラウンジ、ロッカー室等の施設整備を行い学習環境の充実を図っているほか、学食や図書館、情報処理教室(パソコンルーム)といった学内施設の利用も可能です。また、学部生等が対象となる都内の一部美術館等の割引等を受けることもできます。

受講料(学費)について

- 本科・専攻科：年額20万円(前期・後期に分けて納付予定)
- 研究生コース：年額13万円(前期・後期に分けて納付予定)
- ※入学金はありません。

学生証(Student Card)

- カレッジ生には、学生証(Student Card)を交付します。
- Student CardにはIC機能が搭載されており、図書館への入場などが、ゲートへのタッチで可能です。



※イメージ

専用ラウンジ

- 南大沢キャンパス内に、東京都立大学プレミアム・カレッジ生専用のラウンジを設置しています。
- ラウンジには、ミーティングスペースや自習のためのスペース、憩いのスペースを設けているため、カレッジ生の学びと交流を深めていただくことができます。



専用ロッカー

- ラウンジと併せ、各カレッジ生一人ひとりにロッカーを貸与します。
- 教材や研究関係資料等を保管し、キャンパス内での効果的な学習をお手伝いします。



情報処理教室(パソコンルーム)

- 情報教育授業やパソコンを活用する授業が行われるほか、授業時間以外の開室時間帯は、自習に利用できます。
- カレッジ生優先のスペースも整備し、情報処理環境の充実を図っています。



図書館利用(南大沢キャンパス)

- 東京都立大学の有する充実した図書館を活用することにより、カレッジ生の学びをサポートします。
- 南大沢キャンパスのほぼ中央に位置し、約71万冊を数える蔵書のほか、「水野家文書」など貴重な古文書も収蔵。電子資料の提供や文献情報検索ツールを整備しているほか、ラーニング・commons*を有し、多様な学習スタイルに対応しています。

*ラーニング・commons…仲間が集い、議論し、共に学ぶための自主的な学習を支援する場のこと。



AVライブラリー

- 映画・音楽などのDVD、ビデオ、CDを視聴したり、外国語教材を利用することができます。



その他(カレッジ生に対する主な支援など)

事項	概要
東京都立大学 オープンユニバーシティ 会員への加入	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京都立大学プレミアム・カレッジ生は、自動的に東京都立大学オープンユニバーシティの会員となります。 ■ オープンユニバーシティの講座受講についても、会員価格での受講が可能です。 ※オープンユニバーシティについての詳細は、P.29を参照
公益財団法人 東京都歴史文化財団の 管理する一部の都立文化施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一部の東京都歴史文化施設において、対象の展覧会等が無料(常設展等)又は割引(企画展・特別展等)で観覧可能です。
メールアドレスの付与	<ul style="list-style-type: none"> ■ カレッジ生一人ひとりに、大学のメールアドレスを付与いたします。
パソコンの貸し出し	<ul style="list-style-type: none"> ■ カレッジ生に対して、AV棟等でノートパソコンの貸し出しが可能です。
学内の情報処理システムの利用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業の課題提出等を学内のシステム上で実施するなど、充実したICT環境の下で学ぶことができます。 ※必修科目「情報リテラシー基礎」(本科のみ)においても、利用方法に係る講義や演習を行います。(詳細P.8参照)
学生教育研究災害傷害保険 (学研災)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生(カレッジ生)が教育研究活動中に被った災害に対して必要な給付を行う制度です。
東京都立大学 ボランティアセンターの利用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京都立大学学部生等と同様、ボランティアセンターの利用が可能です。

※東京都立大学プレミアム・カレッジは、通学定期券・学割の対象外です。

東京都立大学プレミアム・カレッジ生の声



鴨下 佐知江さん
本科(2023年入学)

80歳、蘇る青春!

東京都立大学南大沢キャンパスは30数年前から、憧れのキャンパス。でも私とは縁のない遠い存在でした。5年前に余命数カ月を宣告されて大手術後、幸いにも復活。コロナ禍で遠出も出来ない日々、その中で偶然目にしたプレミアム・カレッジ生募集広告「生涯学べる100歳大学」の文字が私を魅了、即応募しました。しかし私はもうすぐ80歳。しかもパソコンに触れた事が無い。不安な日々の中で「入学してから学べば大丈夫ですよ。」の先生の言葉に励まされての入学でした。[人生百年時代]をどの様に生きるかが私の課題。先ずは出来る事から実行しようと決心。学ぶ事は楽しい。

新しい知識を得た喜び、興味が広がり、それが次に繋がり、雪だるまの様に大きくなります。苦手なパソコンの扱いについては他人の手を借りつつも、世話になる事の感謝も忘れずに、そこでまた新しい交流も生まれた事も人生の収穫と考えています。現在のこの情報化時代の中で避けられないネットの世界で、自立を目指して奮闘の毎日。大学の充実した設備を使い、先生方、孫世代の学生、各所のスタッフの方々にも快く接して頂き、校外学習では個人では行きにくい場所の見学も興味深く体験し、正に「青春復活!」です。



齊藤 茂さん
専攻科(2022年入学)

それまでとは違う世界が広がる

仕事を辞めてからはご多分に漏れず「ウォーキング」「運動教室」「カルチャー」で漫然と1年半を過ごしていたが、ふと中吊り広告に目を留めると「50歳以上の者を対象とするプレミアム・カレッジ生募集」と書いてある。「面白そうだし70の手習いも悪くないか」という安易さ?から志願手続き等を行い、無事入学の運びとなったが、何しろ学生は遠い昔の話、アナログ人間がついて行けるかは不安でした。勤め人はどうしても仕事を通じた世界の延長になりがちですが、ゼミに配属されたメンバーは多彩な仕事をしてきた者の集まりであり、しがらみのない別世界を生きてきたメンバーとの交流は



「多摩・島しょ地域の自然」御嶽山フィールドワーク(2023年撮影)

新たな視野を広げてくれる充実した時間でした。他ゼミメンバーとの交流やJAXA、天文台、古墳、地下貯水池、ダムなどのフィールドワーク講義の豊富さ充実ぶりもとても満足できるものであり、カレッジで学ぶ大きなメリットともいえると思います。まずはチャレンジしてみる事が大事なのでは!



岸 耕平さん
本科(2023年入学)

新しい発見とワクワク感を日々体験し、仲間と語り行動できる学びの輪を共に広げましょう!

プレミアム・カレッジに出願の動機は、2022年秋プレミアム・カレッジの講義・模擬授業に参加させて頂き山田昌久教授講義「北海道・北東北縄文遺跡(世界遺産に登録)から日本史・縄文の見直し」を聴講し、学生時代に習った縄文時代の絵姿と全く異なり目からウロコが落ちる体験をした事でした。学究の最先端に触れる事で、世界の見え方が大きく変わるのではないかと心の底から思い、プレミアム・カレッジで学び論文をまとめたと言う気持ちが沸き起こりました。そして昨年末に応募して、幸い今年度入学させて頂きました。入学してからは、アカデミック最先端の先生方の講義やゼミ、フィールドワークに参加し、予想を超えた発見とワクワク感と言った毎日新しい知的刺激を受けて学びを楽しんでいます。例えば、科目等履修で受講している

科目「植物の多様性と進化」の先生がなんと今春のNHK朝の連続ドラマ「らんまん」の主人公である牧野富太郎先生が採集された植物標本を所蔵している牧野標本館館長村上教授だったのです!村上先生から最新の植物分類・系統学の基本と最先端のDNA分析手法を用いる事で、形態学的分類系統学から大きく進歩した多様な種の存在や氷期・間氷期の植物相分布変化を学びました。この様なDNA分析手法は、今都立大学では、上記縄文時代等考古学研究にも活用され新しい学問の扉を開けようとしてされています。プレミアム・カレッジ生は、この様な素晴らしい先生方から日々ご助言・ご指導を頂ける素晴らしい学びの場にあります。来年皆様と共に学びの輪でお会いできる事を楽しみにしています。



都政課題(豊洲市場)フィールドワーク(2023年撮影)

東京都立大学プレミアム・カレッジでの過ごし方(イメージ)

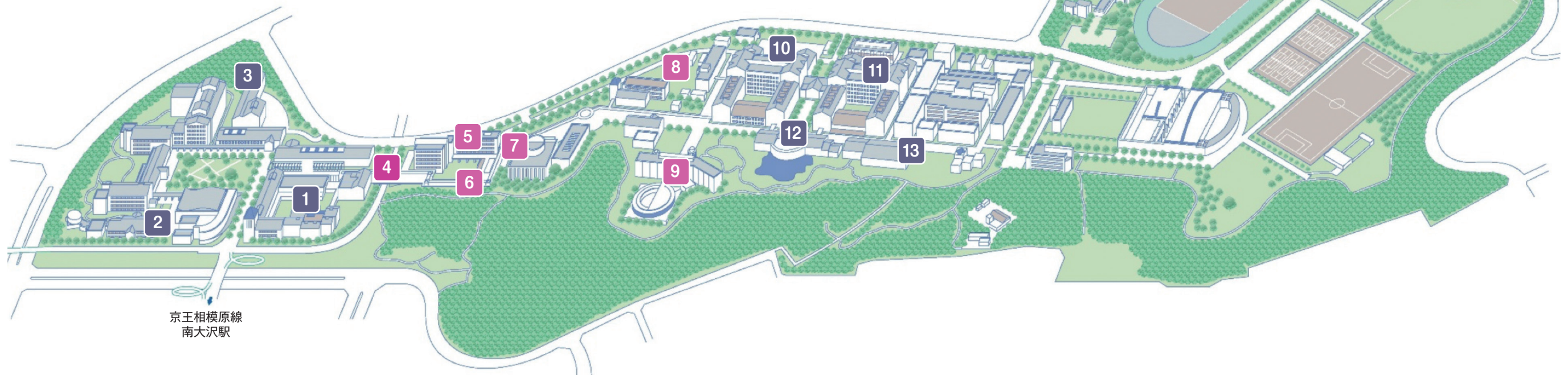
東京都立大学プレミアム・カレッジの時間割は、東京都立大学の学部生等と同じ時期(前年度の冬以降)に決定する予定ですが、授業は、3限(13時00分~)、4限(14時40分~)、5限(16時20分~)を中心に実施しています。以下は、東京都立大学プレミアム・カレッジでの過ごし方のイメージ(時間割)となります。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限 8:50~10:20	キャンパス内をウォーキング	自宅で授業の予習・復習		アドITIONAL科目 (学部生と同じ授業を受講)	
2限 10:30~12:00	AVライブラリーでDVDを視聴				
昼休み	カレッジの仲間と学食で昼食		選択科目Bのフィールドワークで現場見学**	カレッジの仲間と学食で昼食	南大沢駅周辺で昼食
3限 13:00~14:30	ラウンジで仲間とゼミナールの打合せ			選択科目C(教養科目群)	図書館で授業やゼミナールの調べもの
4限 14:40~16:10	前期ゼミナール	選択科目A(プログラム科目群)		選択科目D(プログラム科目群)	
5限 16:20~17:50		選択科目B(プログラム科目群)		ボランティアセンターで学生と企画の打合せ	
課外	自宅で授業の復習、レポート課題の作成など				

※週のうち1日(水曜日)は授業を実施しない曜日とし、各授業で実施するフィールドワークの実施日としています。(各科目でフィールドワークの実施日が重複しないよう調整しています。)
 ※あくまで、「過ごし方の一例」の「イメージ」となります。実際の時間割等と異なる場合がありますので、ご了承ください。
 ※カレッジ生の希望により、上限の範囲内でさらに履修科目を追加することも可能です。(各科目履修の上限等の詳細はP.26をご参照ください。)

プレミアム・カレッジの特徴
 ご挨拶 / 求める学生像
 カリキュラムの概要・構成
 カリキュラムの内容
 ゼミナール担当教員からのメッセージ
 学生生活・キャンパス
 年間スケジュール(予定) / 入学選考について
 修了要件履修の上限修了後
 FAQ

キャンパス紹介 (東京都立大学 南大沢キャンパス)



京王相模原線
南大沢駅

1 1号館



3階建ての教室棟です。東京都立大学のシンボルである、光の塔があります。本カレッジの授業教室として、主に使用しています。

2 2号館



東京都立大学プレミアム・カレッジ専用ラウンジ、事務局がある建物です。

3 6号館



1階建てと4階建ての2つの建物からなる教室棟です。本カレッジの授業教室として、使用しています。

7 図書館本館



図書館本館では、約71万冊を数える蔵書のほか、「水野家文書」など貴重な古文書も収蔵しています。

8 情報処理施設



情報処理教室では、情報教育授業やパソコンを活用する授業が行われます。カレッジ生優先スペースがあります。

9 国際交流会館



学術交流に関する事業並びに外国人研究者等の宿泊に利用しています。

4 AV棟



2階建ての、視聴覚設備を備えた3教室とAVライブラリー（映画・音楽などを視聴したり、外国語教材が利用可能な部屋）のある施設です。

5 生協購買書籍部



書籍・文具など学習に必要なアイテムが揃います。コンビニも併設されており、学生生活には欠かせない施設となっています。

6 生協食堂



定食ばかりでなく、好みに合わせてセレクトできるリーズナブルな単品メニューが豊富。

10 8号館 11 9号館



理系エリアにある8号館は8階建て、9号館は9階建ての建物です。理学部と都市環境学部の施設です。本カレッジの授業教室として、使用することができます。

12 11号館



理系エリアにある3階建ての教室棟です。出入り口の反対側に調整池があります。本カレッジの授業教室として、使用することができます。

13 12号館



理系エリアにある2階建ての教室棟です。本カレッジの授業教室として、使用することができます。

プレミアム・カレッジの特徴

ご挨拶 / 求める学生像

カリキュラムの概要・構成

カリキュラムの内容

ゼミナール担当教員からのメッセージ

学生生活・キャンパス

年間スケジュール（予定） / 入学選考について

修了要件・履修の上限・修了後

FAQ

年間スケジュール (予定)

2023年度

1月 本科入学選考、合格発表

2月
~3月

入学手続、入学前ガイダンス、
専攻科・研究生コース入学選考

2024年度

4月 入学式
履修等ガイダンス
前期授業開始

7月 前期授業終了
前期期末試験(科目等履修)

8月 夏季休業
夏季集中講座

9月 夏季集中講座

10月 後期授業開始
次年度カレッジ生向けイベント実施・出願受付開始

11月 次年度カレッジ生向けイベント実施

12月 冬季休業(年末年始)
次年度本科第一次選考結果発表

1月 次年度本科第二次選考及び最終合格者発表
後期授業終了
後期期末試験(科目等履修)

2月 専攻科・研究生コース入学選考
春季集中講座
成果発表会

3月 修了式

※予定は変更となる場合があります。



入学選考について

(2024年度東京都立大学プレミアム・カレッジ本科生募集概要)

出願資格	次の条件を満たしている者 ●2024年3月31日現在、50歳以上の者 (1974年(昭和49年)4月1日以前に生まれた者) ●日本国の高等学校を卒業した者。もしくはそれと同等とみなせる者 (2024年3月までに卒業見込みの者を含む。)
募集人員	55名程度
出願期間	2023年(令和5年)10月14日(土)~同年11月28日(火) (書類の提出は郵送のみ。上記必着) ※選考料の納入期限は同年11月27日(月)17時00分まで。 ※出願書類と小論文*1(1,500字以上~2,000字以内)を提出
選考方法	第一次選考 小論文(出願時提出) 第二次選考 面接*2(2024年1月7日(日)実施) ※第一次選考合格者を対象に第二次選考を行います。 一定の水準に達しない場合は、不合格となります。
選考手数料	10,000円
最終合格者発表	2024年(令和6年)1月19日(金)14時(予定) ※併せて、受験者に同日、結果通知書を発送します。
受講料(授業料)	200,000円(年額) ※入学金はありません。

詳細は「2024年度 東京都立大学プレミアム・カレッジ入学選考本科生カレッジ生募集要項」に掲載しています。
募集要項は、Webサイトからダウンロードいただくか、問合せ先(裏表紙参照)にご請求ください。

※1 小論文について

- 小論文のテーマは、「東京都立大学プレミアム・カレッジの志望理由を中心とし、何を学び、仲間とどのように関わり、その経験をどう生かしていくか」です。これまでの人生経験や、家族・仲間・地域との繋がりを踏まえて、論理的に書いてください。(1,500字以上2,000文字以内)
- 使用する様式、提出方法等の詳細は募集要項に掲載しておりますので、必ずご確認ください。

※2 面接について

- 第二次選考(面接)は、第一次選考合格者の方を対象に、1人20分程度質疑応答を行います。
- 出願の動機や、入学後の学び方、学んだことを修了後どのように活かしたいかなどについて、お答えいただきます。

プレミアム・カレッジの特徴

ご挨拶 / 求める学生像

カリキュラムの概要・構成

カリキュラムの内容

ゼミナール担当教員からのメッセージ

学生生活・キャンパス

年間スケジュール(予定) / 入学選考について

修了要件履修の上限修了後

FAQ

修了要件、履修の上限、修了後について

修了(卒業)要件

以下のとおり、年間で156時間以上(専攻科は「情報リテラシー基礎」、「研究を始める前に」を除く144時間以上)の履修等が要件となります。

〈修了要件の目安〉

区分	科目名・科目分類	修了要件
必修科目	前期ゼミナール	18時間
	後期ゼミナール	18時間
	情報リテラシー基礎(本科のみ)	6時間
	研究を始める前に(本科のみ)	6時間
選択科目	プログラム科目群	72時間(4科目)
	教養科目群	36時間(2科目)
アドリショナル科目	科目等履修、夏季・春季等集中講座等	修了要件には含めない

156時間
(144時間)※1

※1専攻科の修了要件です。

※上記に加え、成果発表会における修了論文の発表を要件とします。

■ 修了要件の基本的な考え方

- 東京都立大学プレミアム・カレッジでは、単位制を採用せず、履修の時間単位で修了要件を定めています。
- 必修科目、選択科目については、原則、1.5時間(90分)の授業を12回実施します。従って、1科目を履修すると、原則18時間履修したことになります。

履修の上限について(履修可能科目数)

選択科目の履修登録の上限はそれぞれ6科目(合計12科目)となります。

区分	履修登録の上限	
選択科目	プログラム科目群	6科目
	教養科目群	6科目
計12科目		

※アドリショナル科目については、履修登録の上限には含めません。

修了後について

■ 「東京都立大学プレミアム・カレッジ専攻科・研究生コース」への進学

本科修了後も、東京都立大学プレミアム・カレッジで引き続き学びたいという方は、選考を経た上で専攻科(1年間)に進むことが可能です。さらに、専攻科修了後、選考を経た上で研究生コース(最長2年間)へ進むことが可能です。カレッジでは最長4年間、充実した環境の下、仲間と共に学び続けることが可能です。

■ その他修了後の活動について

本学での学びを活かしたボランティア活動や地域貢献活動への参加や、研究をさらに深めるために、入学試験を経た東京都立大学の学部や大学院への進学等も考えられます。

FAQ(よくあるご質問・回答)

多くの方からお寄せいただいているご質問への回答を掲載しています。

Q1 講演会等のイベントには参加できませんが、入学選考には影響ありませんか。

A 講演会等へのご参加の有無は、入学選考には一切影響しません。講演会等は、より多くの方に東京都立大学プレミアム・カレッジの魅力等を知っていただくための機会の一つです。お時間がございましたら、ぜひご参加ください。

Q2 東京都立大学プレミアム・カレッジは通学定期券・学割の対象となりますか。

A 東京都立大学プレミアム・カレッジは通学定期券・学割の対象とはなりません。

Q3 東京都立大学のどのキャンパスに通うのでしょうか。

A 東京都立大学の南大沢キャンパス(八王子市)に通っていただきます。

Q4 出願資格が「高等学校卒業した者」とありますが、大学卒業した人は資格があるということで良いのでしょうか。

A 大学卒業、大学院修了の方ももちろん出願資格を有します。

Q5 仕事に就きながらプレミアム・カレッジの授業を受講することはできますか。

A 週のうち1日は、授業を実施しない曜日を設定し、各授業で実施するフィールドワークの実施日としています。1週間の通学日数は、個人ごとに異なりますが、修了するためには、概ね週3日以上通学が必要となります。具体的なモデルケースは、「東京都立大学プレミアム・カレッジでの過ごし方(イメージ)」(P.21)を参考にしてください。

Q6 在学期間は1年とのことですが、もっと学びたい。1年で卒業しなければならないのですか。

A 1年の在学期間を修了した方が、もう1年学べるための制度として、「専攻科」を設置しています。また、専攻科を修了した方は、さらに最長2年間学べる制度として「研究生コース」を設置しています。

Q7 東京都立大学プレミアム・カレッジを修了すると、大学院の入学資格が得られるのですか。

A 東京都立大学プレミアム・カレッジを修了すると、学校教育法に基づく履修証明が交付されますが、学位を取得することはできません。大学院等への進学をご希望の場合は、所定の大学院入学試験等に合格する必要があります。修了後に大学院等での研究をご検討される方からのご相談にも応じています。

【参考】東京都立大学について

東京都立大学は、首都東京の大学にふさわしい人材育成や研究を行うことで大都市が抱える様々な問題の解決に貢献すること等を目的に、2005年4月に都立の4大学を再編統合し、開学しており、現在約9,000人の学生が学んでいます。

東京都立大学の使命

「大都市における人間社会の理想像の追求」

基本的な目標

世界有数の大都市である東京都が設置する総合大学として、グローバル社会を生き抜く「本物の考える力」を持った人材を輩出するとともに、基礎的な学問分野及び大都市課題を始めとする先端的課題を共に深く追究することにより、卓越した研究と質の高い教育の好循環を実現することを目指す。

所在地

- 南大沢キャンパス（八王子市南大沢）
- 日野キャンパス（日野市旭が丘）
- 荒川キャンパス（荒川区東尾久）



学生数

- 学生9,056人（学部6,812人、専攻科10人、大学院2,234人）、教員646人
- 外国人留学生545人（学部67人、大学院389人、その他89人） ※学生数、教員数及び外国人留学生数は2023年5月1日現在

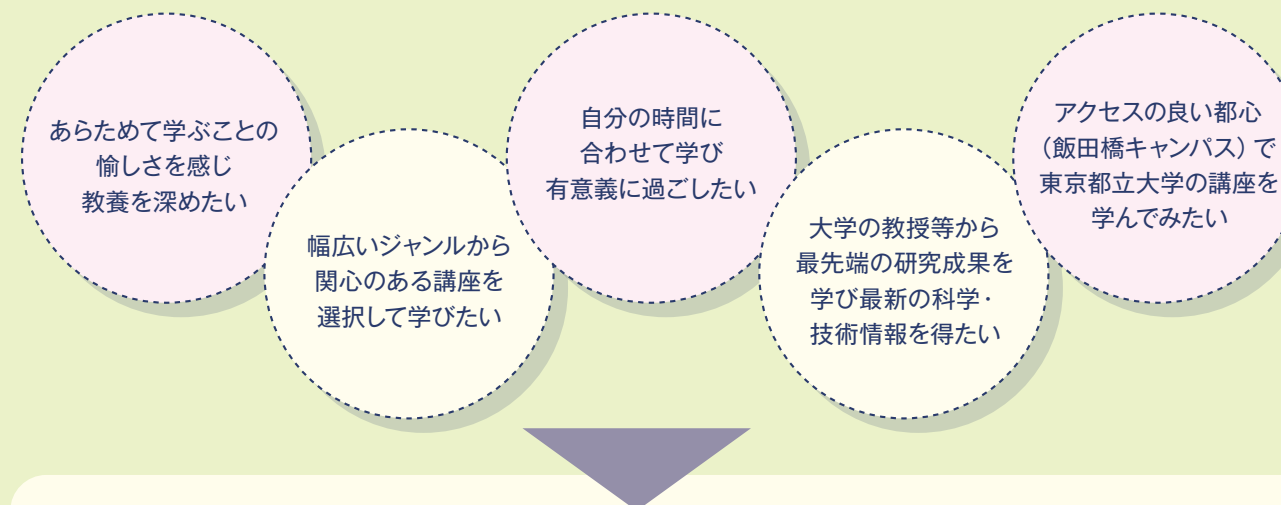
学部等構成

学部	人文社会学部	大学院	人文科学研究科
	法学部		法学政治学研究科
	経済経営学部		経営学研究科
	理学部		理学研究科
	都市環境学部		都市環境科学研究科
	システムデザイン学部		システムデザイン研究科
健康福祉学部	人間健康科学研究科		
専攻科	助産学専攻科		
その他の 教育・研究組織	大学教育センター		
	国際センター		
	学術情報基盤センター		
	総合研究推進機構		
	産学公連携センター		
	生涯学習推進センター		

【参考】東京都立大学における生涯教育の取組

東京都立大学では、「東京都立大学プレミアム・カレッジ」の他に、「東京都立大学オープンユニバーシティ」として、一般教養から最先端の研究成果まで幅広い分野から受講できる仕組みや「科目等履修生」として大学講義の受講等、東京都立大学が有する豊かな教育研究資源を活用した学習が可能です。

例えば、こんな方におすすめです



東京都立大学オープンユニバーシティ



概要

- 有料（一部無料）で、日本や世界の文化、社会について学び考える一般教養講座から最先端研究の成果を学ぶ講座まで、幅広い公開講座を1講座から受講することができます。
- 年間約350講座という、非常に多彩で幅広い講座を提供しています。
- 対面だけでなく、オンラインでの講座も開講しています。

会場

- 東京都立大学飯田橋キャンパス 他
（東京都千代田区飯田橋3-5-1 東京区政会館3階）

その他

- 講座の申込には入会が必要です。（入会金3,000円）
- 詳細は、以下をご参照ください。
<https://www.ou.tmu.ac.jp/web/>

■さらに、科目等履修生制度の活用や、大学院入試や学士入試を経た東京都立大学への進学等、幅広い世代の方々に、生涯を通じて東京都立大学で深く充実した学びの機会を提供します。

■東京都立大学 大学・大学院の入試案内はwebサイトをご参照ください。
<https://www.tmu.ac.jp/entrance.html>